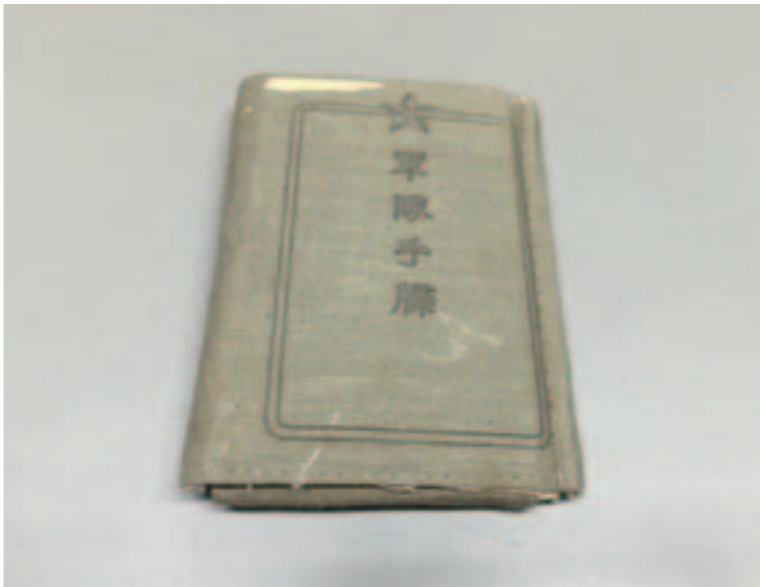


防空壕に収納しておいたものだけでした。空襲で焼け出され、私たちは東京から長久手に戻るしかありませんでした。当時は、東京から名古屋まで汽車で八時間かかりました。また、バスも東山(名古屋市千種区)までしか運行しておらず、そこからは徒歩で長久手まで移動した記憶があります。

その後、日本は終戦を迎えました。ラジオから流れてきた昭和天皇の玉音放送は今でも忘れることができません。この放送を聞いて、私は、日本が戦争に負けたのだと思いました。そう思うと涙が止まりませんでした。私だけでは、皆も泣いていました。

戦争中は、人々の生活に必要な食糧、衣服、燃料等を自由に手に入れることができないばかりか、いつ死ぬか分からない不安に押しつぶされそうな日々を過ごさなければなりません。いいことは何一つありません。二度と起こしてはならないのです。



軍隊手帳／軍人としての身分や心構えなどが書かれていた。 所有：倉地ふみ子



戦陣訓／昭和16年1月8日、陸軍大臣より全陸軍に示達されたもの。中国に於ける戦争の長期化に伴い、戦地における軍の規律を訓示した。戦場における軍人の具体的な行動の準拠を示し、軍紀の確立と住民の保護を強調している。 所有：倉地ふみ子

現在の想い

倉地ふみ子さん

世の中に正しいことほど強いものはありません。ですから、日本は、憲法で他国を威すようなことを一切しないと決めているのです。

例えば、よその国と争いごとが起こったときです。

決して、戦争によって相手の言い分を通そうとしない。これは、誤ったことであり、戦を仕掛けることは、結局、自分の国を亡ぼすこととなります。ときには、暴力は、戦争までいかずとも国の力で相手を亡ぼすことにもなりません。戦時中の日本は、対外的に一貫して力の政策が追求されました。これを戦争の膨張主義といいます。

これからは、世界の国々と仲良くして世界中の国々が友達になってくれるようにすれば、日本は栄えていくでしょう。

皆さん、あの恐ろしい悲惨な戦争を二度と起こさないようにしましょう。